

## 植物おぼえがき(2)

著者	山中 二男
著者別表示	Yamanaka Tsugio
雑誌名	植物地理・分類研究
巻	40
号	1
ページ	63-64
発行年	1992-06-25
URL	<a href="http://doi.org/10.24517/00055729">http://doi.org/10.24517/00055729</a>



- 日本積雪連合, 1974, 豪雪地帯における雪寒メッシュマップ調査.
- , 1976, 豪雪地帯における年最大積雪深, 積雪日数, 年最大降雪量の4 km メッシュマップ作成に関する研究, 雪の基礎資料 No. 9, (財) 日本積雪連合資料 No. 125.
- 佐藤隆雄, 1980, ナガバジャノヒゲ, 新潟県植物分布図集 1: 143-146, 植物同好じねんじょ会.
- 白崎 仁, 1984, エビゴケの生態分布, 植物地理・分類研究 32: 59-67.
- , 1985, ニスピキカヤゴケとケクラマゴケモドキ (苔類) の生態分布, 植物地理・分類研究 33: 82-95.
- , 1989, オオシラガゴケとヒノキゴケ (蘚類) の生態分布, 植物地理・分類研究 37: 15-25.
- , 1990, ホソバオキナゴケ, 新潟県植物分布図集 11: 63-72, 植物同好じねんじょ会
- 和田久美子, 1986 a, 新潟県におけるアオキうどんこ病菌 (*Microsphaera* sp.) の分布型, 新潟県植物分布図集 7: 430-432, 植物同好じねんじょ会.
- , 1986 b, 新潟県におけるアオキうどんこ病の発生区域, 日本菌学会第 30 回大会講演要旨集: 56-57.
- , 1987, 小地域内におけるアオキうどんこ病の発病と残雪, 日本菌学会第 31 回大会講演要旨集: 61.
- , 1989, アオキうどんこ病菌の限定要因, 日本菌学会第 33 回大会講演要旨集: 69.
- WADA, K. 1989, Climatic variations and ecological distribution of powdery mildew fungus on *Aucuba japonica* in Niigata Prefecture, Japan. Summary of Post-5 th ISME Mycology Symposium: Fungi and Environment.
- 山口富美夫・岩月善之助, 1988, 日本産ホソバオキナゴケの学名, *Hikobia* 10: 235-238.

(Received April 20, 1991)

○ 植物おぼえがき(2) (山中二男) Tsugiwo YAMANAKA: Miscellaneous Notes on Japanese Plants (2)  
 3. ヤマハハコ 赤石山脈でしらべてからも (山中 1989), ヤマハハコ *Anaphalis margaritacea* (L.) BENTH. et HOOK. f. は, 気にかけている植物の一つであるが, その後に観察したことを書いておく。

杉本 (1984) によると, 伊豆半島の天城山地には, ヤマハハコはまれでないことになっているが, その変異にはべつにふれていない。遠笠山でも普通で, 頂上 (1197 m) 付近の礫地には, 葉の長さ 6~8 cm, 幅 7~9 mm のヤマハハコがあるが, それはむしろ少なく, 山頂までの道すじでよく見かけるのとおなじように, 長さ 3~6 cm, 幅 4~6 mm のものが多い。

西天城の猫越峠の北の林道ぞいで, フジアカシヨウマなどと混生しているのは, もっと葉が狭くて, ほとんどが幅 3~5 mm である。長さは 3~5 cm でホソバノヤマハハコ subsp. *japonica* (SCHULZ.-BIP.) KITAM. として問題のないものであろう。

ホソバノヤマハハコの東北地方の記録には疑問をもっていたが, ところによって狭葉のものをみるのはたしかである。西吾妻のスキー場周辺に多いヤマハハコの葉の広狭にも変異があり, 長さは 6~8 cm, 幅は普通 6~10 mm であるがしばしば 10~15 mm になる。しかし, なかには長さ 3~5 cm, 幅 3~4 mm で, ホソバノヤマハハコといえるものがある。

なお, ヤマハハコの茎が中部で分岐する型には, エダウチヤマハハコの名がつけられたことがある。東北地方たとえば蔵王山には, これが普通のものとして混生しているのが見られる。

こうした事実もあり, ヤマハハコの変異とホソバノヤマハハコの分布には, なお検討の余地があろう。

4. アカイシコウゾリナ 狭葉の植物といえば, 天城山のコウゾリナ *Picris hieracioides* L. subsp. *japonica* KRYLOV も一つの例で, 遠笠山道路ぞいに生えているのがそれである。葉は茎の下部で長さ約 10 cm, 幅 8~10 mm, 中部では長さ 8 cm 内外, 幅 7~8 mm で, 見たところアカイシコウゾリナ var. *akaishiensis* KITAM. と思われる。総苞内片は長さ 8~10 mm で, コウゾリナよりやや短いのが剛毛がある。アカイシコウゾリナの基準産地である長野県大鹿村小波のものとからべてみると, 葉の形や大きさ (小波では茎の下部で長さ 9~11 cm, 幅 9~10 (~13) mm, 中部で 6~9 cm と 7~8 mm) にはあまり違いがなく, また総苞片の剛毛の多少でもして区別することができない。

アカイシコウゾリナは, 長野県のほか山梨・静岡・神奈川県にあり, フォッサマグナ要素の一つとされているが (高橋 1971), 伊豆半島まで分布することはまだわかっていない。生育地の状況から, 新しく近年入ってきたようにも思えるが, ともかくここでは, アカイシコウゾリナと同定できるものがあることを記録しておく。

5. エダウチチデミザサ 四国にもエダウチチデミザサ *Oplismenus compositus* (L.) BEAUV. が分布することは, 室戸岬で確かめられている (山中 1990)。そのさい, まだほかのところにあるかもしれないと書いた

が、やはり足摺岬に見られることがわかった。室戸岬のように普通ではないが、常緑広葉樹林の縁に群生しているところがある。

## 引用文献

杉本順一. 1984. 静岡県植物誌. 814 pp. 第一法規.

高橋秀男. 1971. フォッサ・マグナ要素の植物. 神奈川県立博物館調査研究報告 自然科学 第2号 63 pp. 神奈川県立博物館.

山中二男. 1989. 赤石山脈のヤマハハコ属. 植物地理・分類研究 37: 5-7.

——. 1990. 高等植物分布資料 (132). 植物研究雑誌 65: 192.

(〒780 高知市宝町 11-6 Takaramachi 11-6, Kochi 780)

○ 大橋広好(訳) 第14回国際植物学会議(ベルリン 1987年7~8月)で採択された国際植物命名規約 津村研究所(〒310-11 茨城県稲敷郡阿見町吉原 3586) 1992年1月10日発行. A5判, 214頁. 定価 2,500円.

昨今、国際交流や国際貢献がやかましく宣伝されるようになってきたが、植物学の世界では学名を知らず使わずでは交流も貢献もない。かつて、ある外国の植物分類学者から「日本では一体学名教育をやっているのか」となじられたことがあった。学名を理解し覚えるためには、何よりも命名規約を知らねばならぬ。私のところでも命名規約の演習などはやっていないが、それは、適当な訳書がなかったからである。理解に時間のかかる原書よりも正確な和訳書の方がはるかに能率的である。幸い、今回、「国際植物命名規約」の正書と付則I「雑種の学名」の完訳が出版された。私など、自動名の取り扱い方が分らず困っていたが、本書によって理解できた。学名など必要ないとの極論を時折きくが、生物の科学的相互理解の第一歩は、正しい学名の使用にある。この本の出版によって日本の植物学者の命名法の理解が一段と進むことを期待したい。来年は横浜で第15回国際植物科学会議が開かれるが、数日にわたって命名規約会議も開催される。恐らく、再来年には東京規約が発表される。私たちは東京規約の変更点は何か、注目しておかねばならない。(清水建美)

○ 池上義信(監修)・石沢 進(編集) 新潟県植物分布図集 第12集 植物同好じねんじょ会(〒947 新潟県小千谷市山寺 関省吾方), 1991年12月25日発行. A4判 128頁. 限定300部, 領価(〒別) 3,000円.

1990年12月発行の11集に続き、正確に1年毎に本書12集が刊行された。11集同様の掲載種はヤマソテツほか3種のシダ植物、カマツカ・アズキナシほか13種の双子葉植物、ヤブカンゾウ・サギスケ・ワタスゲの単子葉植物、ミドリイヌエボウシゴケほか2種のコケ植物である。これで合計1050種の新潟県産の陸上植物の分布図詳図が完成したことになる。これらの分布図には、北信地方のデータも相当含まれているので、「長野県植物誌」のデータとしても使わせて頂くことにした。本書には分布図のほか、新新潟県植物分布資料(11)、石沢進氏の「離島の植物(11)」の論議も収められている。なお、1, 2集は品切れ、3~11集はまだ在庫がある由である。(清水建美)

○ K. KYODA Catalog of Specimens, National Science Museum, Tokyo. Gramineae Panicoideae. Part I & Part II, 国立科学博物館, 1992年3月発行. A5判, 各141頁. 非売品.

国立科学博物館植物研究部では、コンピュータを駆使して標本のデータベース作りや分布図作成の仕事が進められている。このほど、許田倉園氏によって博物館所蔵のイネ科標本のうち、キビ亜科の標本データが出力製本され関係者に配布された。第1部は種名のアルファベット順、第2部は県別リストである。データの仕様は、コード化された学名(したがって、アルファベット順といっても、5桁の数字が上行式に並んだもの)、片假名表示の和名、TNS 標本番号、県名、地名(ローマ字と漢字)・採集年月日・採集者名である。こうしたデータが研究機関ごとにすべての分類群について出版されるか、遠隔地からのデータ検索ができることになれば、居ながらにして全国的な標本利用が可能になるだろう。ただし、標本の同定が同一の概念に基いて正しく行われていることが前提にあることはいうまでもない。私は、早速に長野県関係分のイネ科植物の全データを送って頂いた。(清水建美)